









奈良学園 キャンパス Takada Campus 奈良文化高等学校・奈良文化幼稚園







# 奈良学園 子 大丘 キャンパス Tomigaoka Campus

奈良学園大学・奈良学園大学奈良文化女子短期大学部・ 奈良学園幼稚園・奈良学園小学校・奈良学園登美ヶ丘中学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校



発刊にあたって 学校法人奈良学園 理事長 西川 彭

日本文化の源流ともいうべき奈良文化の史跡・仏教美術・ 古建築に恵まれた大和平野の中南部、中和の地である大和高 田市に学校法人奈良学園(前身は中和学園)が創設されてか ら、50周年という大きな節目の年を迎えました。

この機会に創立者伊瀬敏郎氏をはじめ教職員、学生、保護者、卒業生等学園内外の関係者の皆様のご尽力、ご支援に心から感謝申し上げ、先人の堅持してこられた建学の精神・教育理念に思いを馳せ、本学園の更なる飛躍発展を期したいと思います。

顧みますと、奈良県中南部における唯一の女子最高学府として昭和40年4月に開学いたしました奈良文化女子短期大学と同時開校の付属高等学校こそが奈良学園の原点であります。以来、女子教育から出発した本学園は、昭和42年に付属幼稚園を開園、さらには時代の要請に応え昭和54年に中高一貫の男子校である奈良学園中学校・高等学校を大和郡山市に開校いたしました(平成12年には男女共学校)。続いて昭和59年には、創立者の当初からの念願であった奈良産業大学を三郷町に開学したところです。

創立者の建学の精神は、「形式的な大量教育の弊を避け、 個性尊重の温かい人間形成の場として、堅実にして良心的な 教育を行うことを使命とする。深く学問の真理を追究し、知 性豊かな女性を育成するとともに近代的な教養と徳性を養う ことを目途とする。」ということでありました。この建学の 精神は今日まで連綿として受け継がれ、常に時の教育課題に 積極的に取り組み、時代を先取りするという伝統を築き上げ てきたのであります。

21世紀に入り、急速に情報化、国際化、成熟化、少子高齢 化が進展していく中で、求められる人材とは、多量の情報に 流されず「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する」主体的な 人間であり、宇宙船地球号の乗組員として人類の平和に貢献 できる人間です。奈良学園に課せられた課題は、こうした時 代や社会の要請に応えられる人材の育成と心得て、平成20年 ~21年に「関西文化学術研究都市」に繋がる奈良市登美ヶ丘 の地に、幼稚園から小学校、中学校、高等学校までの15年間 を一貫して教育する学校を開設いたしました。

本学園は創立50周年という節目の年を迎えましたが、この記念すべき年に当たり、大学に新たに人間教育学部、保健医療学部の2学部を設置し、名称も「奈良産業大学」から「奈良学園大学」と変更いたしました。あくまでも奈良産業大学の歴史と伝統を受け継ぎながら、更なる飛躍発展を目指し、奈良学園のフラッグシップにしたいという関係者一同の強い願いからです。

現在、本学園は奈良県下4か所にキャンパスを持ち、幼稚園から大学までの全ての校種を擁する一大総合学園に発展しました。

これからも「人間力」をキーワードに、「生きる力」を持った「意欲と思いやりと志のある人間」、「高い志をもった教養豊かなリーダー・世界に雄飛する真のエリート」を育てるべく全力を傾注する覚悟です。

皆様の変わらぬご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

第1章	学園の軌跡	
	奈良学園創立者、伊瀬敏郎氏の建学精神	10
	学園の軌跡 1964~1965年度	14
	1966~1969年度	16
	1970~1975年度	18
	1976~1982年度	20
	1983~1989年度	22
	1990~1995年度	24
	1996~2000年度	26
	2001~2004年度	28
	2005~2007年度	30
	2008~2010年度	32
	2011~2014年度	34
第2章	奈良学園のひとづくり	
	座談会 奈良学園の50年の伝統を未来に生かすために	38
第3章	各校・園の概要	
	奈良学園大学	48
	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	58
	奈良文化高等学校	68
	奈良学園中学校・高等学校	78
	奈良学園登美ヶ丘	88
	奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	92
	奈良学園小学校	96
	奈良学園幼稚園	
	奈良文化幼稚園	
	奈良学園セミナーハウス「志賀直哉旧居」	
	示尺子图に、ケーバノハ「心貝巨氏山山」	107
資料網	扁	
	学園の全体像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	110
	- プロ・エー	
	歴代理事長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	歴代各所属長・登美ヶ丘教育総括監・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	奈良学園組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	各キャンパス	
	クラブ活動等の記録	
	学校法人奈良学園栄誉賞受賞者	
	協定	
	学歌・校歌・園歌	
	卒業生の推移・・・・・・・・ 1	138



学園の軌跡



1970年代の伊瀬敏郎氏

# 郷里のために

## 郷里の復興・発展に貢献

奈良学園の創立者である伊瀬敏郎氏は、大正13(1924)年1月7日、 奈良県北葛城郡磐城村 (現・葛城市) 竹内に生まれた。

地元小学校から奈良県立旧制畝傍中学校、旧制松山高等学校を経 て東京帝国大学に入学。1947(昭和22)年3月、東京帝国大学経済 学部を卒業した伊瀬氏は、衆議院農林専門調査室に勤務したのち、 当時、結成間もない日本社会党の書記長・浅沼稲次郎氏から要請さ れて同党代議士の秘書となった。

しかし、太平洋戦争の敗戦で荒廃した当時の日本では、中央でも 地方でも国土復興に向けて懸命な努力が続けられており、学生時代 から「社会に貢献できる仕事がしたい」と願っていた伊瀬氏は、し だいに郷里奈良の復興・発展に尽くしたいとの思いを募らせ、1950 (昭和25)年に帰郷する。

#### 中和・南和の後進性を痛感

伊瀬氏の父、伊瀬幸太郎氏は衆議院議員を務めていたが、敏郎氏 が帰郷した時には野に下っていた。敏郎氏は、父幸太郎氏の後援者 から政界進出を促されて、昭和26(1951)年4月の奈良県議会議員 選挙に出馬する。

出馬にあたっては、地元選出議員との調整もあって、新人候補の 伊瀬氏は隣接の大和高田市から立候補することとなった。

選挙運動で、大和高田市内をくまなく遊説して廻った伊瀬氏は、 意外なことに気付く。この当時の大和高田市は「商工の町」として、 北和の奈良市と並び立つ存在であったが、それでも市街に書店は数 軒あるのみで、都市ガスも供給されていなかったのである。中和の 生活環境、文化的環境が北和に比べて大きく遅れていることを痛感 した伊瀬氏は、北和と中和・南和の格差是正に取り組むことを決意 した。

# 中和の文化・生活環境の向上に尽力

## 大和高田市への都市ガス導入に奔走

昭和26(1951)年4月、奈良県議会議員に当選した伊瀬氏は、奈 良県の文化・学術振興のためには、まず教育環境を整えていくこと が必須であるとの考えから、文教常任委員会委員として活動するこ とにした。

そして、議員活動の中で、学校など教育機関がほとんど北和に偏 在していること、中和・南和地域と北和との文化水準の格差は、こ の教育機関の多少によるものであることを認識した伊瀬氏は、中和 地域に自ら学校をつくりたいとの思いを強く抱くようになる。

また、議員在職中に、中和の生活環境向上のために大和高田市域 におけるガス事業を構想した。伊瀬氏は大阪ガス誘致のために奔走 し、また大和高田市にも働きかけてこの構想の実現を目指したが、 これは、当時の大和高田市の財政事情から実現しなかった。

# 念願の学校経営に取り組む

#### ガス事業から学校経営へ

昭和30(1955)年に議員職を辞した伊瀬氏は、昭和32年9月、在 職中の志を貫徹するために、大和高田市において、みずから高田 瓦斯株式会社(現・大和ガス株式会社)を設立した。同社は、翌33 (1958) 年1月15日より都市ガスの供給を開始し、昭和34(1959) 年 には、ガスの供給エリアを大和高田市域から橿原市等にも拡げるな ど事業を拡大し、中和の発展に大きな役割を果たした。

ガス事業が軌道にのると、伊瀬氏はかねてから念願していた学校 経営に乗り出すべく、学校法人中和学園(現・学校法人奈良学園) の経営にあたる。そして大和高田市礒野にて、昭和40(1965)年4月、 奈良文化女子短期大学(現·奈良学園大学奈良文化女子短期大学部) および同付属高等学校(現・奈良文化高等学校)を同時開学したの である。

#### 奈良文化を基礎とした女子教育

「奈良県中南部における唯一の女子最高学府」として開学した、 奈良文化女子短期大学の建学の理想は、「奈良にふさわしい大学と して独特の学風を樹立し、文化国家建設の中核となるべき女性を育 成する」ことにあり、そのために奈良の恵まれた自然環境を教育の 場とし、その豊富な文化財を教育の素材として、文化の香り高い堅 実な日本女性を育成することであった。

伊瀬氏のこうした教育への情熱には、常にその根底に、悠久の歴 史を誇る奈良への愛情があった。二上山のふもと、かつて古代飛鳥

# 伊奈 敏学



短期大学本館に展示された竹内遺跡の出土品

京と難波との交通の要衝 であった郷土に誇りを抱 く伊瀬氏は、竹内遺跡に 係わる出土品を数多く収 集するなど、奈良の文化 文物をこよなく愛してい

したがって、奈良文化 こそ日本文化の根源であ

るとの信念から、短期大学では奈良文化の研究や奈良文化講座を開 催するなど独自の教育を行った。

# 総合学園の実現を目指して

#### 理想のキャンパス、学園づくりへ

伊瀬氏は、中和の教育環境の向上に一応の成果を挙げたことと、 学園の更なる発展を期すために全国的な知名度を考慮して、昭和45 (1970)年4月、学校法人中和学園を「学校法人奈良学園 | へと改称 した。

さらに、大和高田市のキャンパスが着実に整備されていくに従い、 伊瀬氏は4年制大学の開設を考えるようになる。京都府や大阪府に 比べて奈良県には、私立の4年制大学がはるかに少なく、県内の進 学希望者の受け皿として大学開設を企図し、このときには、4年制 大学と中高6年間の一貫教育を行う男子校を併せて開学することを 計画した。

そのために取得したのが、現在の郡山キャンパスである。9万6千 m²という広大なこのキャンパスをつくるときに伊瀬氏の描いた理 想は、「豊かな自然環境と共存する学園」であった。この時期、海外 の大学や研究機関などの視察を重ねていた伊瀬氏は、海外の教育機 関が公園や森と一体化した恵まれた環境の中にあることに感銘を受 けていた。

昭和54(1979)年4月、法隆寺の北東、斑鳩の里に隣接する矢田 丘陵の郡山キャンパスに、4年制大学に先立って、奈良学園中学校・ 高等学校を開校した。

児童、生徒、学生のために、まず、広大なキャンパスを確保し、 充実した教育環境を周到に整えるという伊瀬氏の考え方は、奈良学 園のその後のキャンパス整備の基本方針となった。

#### 4年制大学の開学で総合学園が実現

昭和59(1984)年4月、奈良県初の社会科学系大学として奈良産 業大学(現・奈良学園大学)が開学した。キャンパスは、当初計画



していた郡山ではなく三郷町であったが、三郷町の協力で確保した 造成中の奈良産業大学 土地は11万㎡の眺望に恵まれた高台にあった。

同大学の開設は、奈良県内に社会科学系の学部をもつ大学が無 かったことから、県内の高等学校関係者や地元経済界の要請に応え たものであり、地域産業に貢献する人材育成と諸外国との友好的発 展にも寄与しうる経済人育成を期したものであった。このように伊 瀬氏は学校経営にあたって、常に時代の要請、地域のニーズに的確 に対応してきた。

同大学の開学により、奈良学園は高田、郡山、三郷の3つのキャ ンパスに幼稚園から短大、4年制大学まで備えた総合学園となった。

# 創立者の志を継ぐ

## 「人間力」を備えた人材の育成

平成19年9月、奈良学園は第4のキャンパスとして整備が整いつ つある奈良市登美ヶ丘の地に法人本部を移転した。そして、翌20年 4月には奈良文化女子短期大学(現奈良学園大学奈良文化女子短期 大学部)も同地に移し、さらに同じく4月、奈良学園幼稚園、同小 学校、奈良学園登美ヶ丘中学校を開学した。また平成21年4月から は奈良学園登美ヶ丘高等学校を開学し現在に至る。

伊瀬氏の教育に対する様々な思いは、4キャンパスにわたる幼稚 園から大学まで10校に生かされ、それぞれの建学精神を基に、理想 の教育を追及しながら、互いに連携することにより「人類・社会に 貢献する夢・希望・志をもった人間力のある人材を育む。」という 現在の奈良学園の教育方針に受け継がれている。

平成13(2001)年秋、伊瀬敏郎氏は奈良学園創設以来40年間、奈 良産業大学開学以来20年間の長きにわたる功績を称えられて、私学 振興功労により勲三等旭日中綬章を受章。

平成16(2004)年6月、学校法人奈良学園理事長を勇退。

平成17(2005)年11月23日、伊瀬敏郎氏は奈良県の私学界に大き な足跡を残し、広く教育・産業・経済界等から惜しまれつつ81年の 生涯を閉じた。





奈良文化女子短期大学 第一回入学式で式辞を述べる伊瀬学長



# 奈良文化女子短期大学、 同付属高等学校第一回入学式举行

# 学園のできごと

1964	昭和39	7月	学校法人中和学園理事長に伊瀬敏郎が就任
1965	昭和40	4月	奈良文化女子短期大学開学。教養科開設。学長に伊瀬敏郎が就任
1965	昭和40	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校開校。全日制課程普通科開設。校長に大 門繁男が就任
1965	昭和40	4月	奈良文化女子短期大学第1回入学式
1965	昭和40	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校第1回入学式
1966	昭和41	2月	(短大)7号館〈小講堂〉竣工・1号館竣工、(文高)2号館竣工



奈良文化女子短期大学初代学長 伊瀬敏郎



奈良文化女子短期大学付属高等学校初代校長 大門繁男







開学当時の磯野校舎

# 学園の軌跡 1966~1969 %



開園当時の付属幼稚園



# 奈良文化女子短期大学 付属幼稚園開園

# 学園のできごと

1966	昭和41	4月	奈良文化女子短期大学保育科開設
1966	昭和41	10月	(短大) かつらぎ寮北館竣工・給食室竣工
1966	昭和41	12月	(短大) 短大1号館増築
1966	昭和41	12月	(文幼) 園舎竣工
1967	昭和42	4月	奈良文化女子短期大学食物栄養科開設
1967	昭和42	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園開園。園長に山本豊子が就任
1967	昭和42	5月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に的場義三が就任
1967	昭和42	10月	(短大)1号館増築・10号館(リズム場)竣工、(文高)2号館増築
1968	昭和43	2月	(文幼) 園舎増築



短期大学 創立五周年記念式典







短期大学 かつらぎ寮



付属高等学校 総体出場

1968	昭和43	4月	奈良文化女子短期大学教養科第三部、保育科第三部開設
1968	昭和43	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校定時制課程普通科開設
1968	昭和43	5月	(短大) かつらぎ寮北館増築・かつらぎ寮南館竣工
1969	昭和44	3月	(短大) 本館竣工
1969	昭和44	4月	奈良文化女子短期大学保育科を改組し、初等教育学科開設
1969	昭和44	4月	奈良文化女子短期大学保育科第三部を幼児教育学科第三部に名称変更
1969	昭和44	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校校長に竹村正太郎が就任
1969	昭和44	9月	(文幼) 園舎増築
1969	昭和44	11月	奈良文化女子短期大学創立5周年記念式典
1970	昭和45	3月	奈良文化女子短期大学保育科廃止

# 学園の軌跡 1970~1975 複



秩父宮妃殿下御来学 (昭和46)



# 学校法人奈良学園に 名称変更

# 学園のできごと

_			
1970	昭和45	4月	学校法人中和学園を学校法人奈良学園に名称変更
1970	昭和45	4月	奈良文化女子短期大学学長に足立浩が就任
1970	昭和45	4月	奈良文化女子短期大学教養科第一部を教養学科第一部に、食物栄養科を食物 栄養学科に名称変更
1970	昭和45	4月	(短大) かつらぎ寮南館増築
1970	昭和45	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校全日制課程衛生看護科、定時制課程衛生 看護科開設
1970	昭和45	8月	(文高)4号館竣工
1970	昭和45	10月	(短大)1号館増築・2号館増築、(文高)2号館増築







短期大学・同付属高等学校・同付属幼稚園 創立十周年記念式典 (昭和49)





1971	昭和46	4月	奈良文化女子短期大学衛生看護学科開設
1971	昭和46	11月	秩父宮妃殿下御来学・記念植樹(短大)
1972	昭和47	3月	(短大) 4号館竣工・かつらぎ寮南館増築、(文高) 1号館竣工
1973	昭和48	2月	(短大) 4号館増築、(文高) 1号館増築
1973	昭和48	4月	奈良文化女子短期大学音楽学科器楽専攻、声楽専攻開設
1974	昭和49	11月	(短大) 8号館(新図書館)竣工
1974	昭和49	11月	奈良文化女子短期大学、同付属高校、同付属幼稚園創立10周年記念式典
1975	昭和50	4月	奈良文化女子短期大学専攻科音楽専攻開設
1976	昭和51	3月	奈良文化女子短期大学付属高等学校定時制廃止

# 学園の軌跡 1976~1982 %



開校時の奈良学園中学校・高等学校

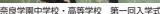


# 奈良学園中学校 奈良学園高等学校 開校

# 学園のできごと

	-		
1976	昭和51	9月	(文高) 3号館(体育館)竣工・1号館増築
1977	昭和52	4月	(短大)3号館竣工
1977	昭和52	7月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に伊瀬敏郎が就任
1978	昭和53	3月	(短大) 5号館 (演奏ホール) 竣工 [現在の文高:奏ホール]
1978	昭和53	6月	志賀直哉旧居を買収保存
1978	昭和53	11月	奈良文化女子短期大学セミナーハウス「志賀直哉旧居」として公開
1979	昭和54	3月	(文高) 1号館増築
1979	昭和54	3月	(中高)中学・高校棟竣工・第一体育館竣工
1979	昭和54	4月	(文幼) 3年保育開始
1979	昭和54	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校開校。全日制普通科開設。 校長に伊瀬敏郎が就任







短期大学 学園会館竣工(昭和56)







付属幼稚園 一日合宿



村属高等学校 修学旅行



短期大学セミナーハウス 「志賀直哉旧居」 修復工事落成式

1979	昭和54	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校校長に次田吉治が就任
1979	昭和54	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校開校式並びに第1回入学式
1980	昭和55	2月	(中高) テニスコート (3面) 完成
1980	昭和55	3月	(中高) 学寮 (青雲寮) 竣工
1980	昭和55	10月	(中高)格技場(至誠館)竣工
1981	昭和56	3月	(文高) 2号館増築
1981	昭和56	6月	(短大)11号館(学園会館)竣工〔現在の文高・文幼の"わの広場 ほっこり"〕
1983	昭和58	1月	(中高) 高校棟竣工

# 学園の軌跡 1983~1989 %



開学時の奈良産業大学 キャンパス全景



# 奈良産業大学開学

# 学園のできごと

	-		
1983	昭和58	9月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校校長に岡本義信が就任
1983	昭和58	12月	(大学)1号館竣工・2号館(大学会館)竣工・3号館(体育館)竣工
1984	昭和59	4月	奈良産業大学開学。奈良産業大学経済学部経済学科、経営学科開設。学長に 伊瀬敏郎が就任
1984	昭和59	4月	奈良産業大学開学式並びに第1回入学式
1984	昭和59	8月	(短大)9号館(学園ホール)竣工〔現在の文高:静ホール〕
1984	昭和59	9月	(中高) 体育クラブ部室竣工
1984	昭和59	11月	奈良文化女子短期大学、同付属高校、同付属幼稚園創立20周年記念式典
1985	昭和60	4月	奈良文化女子短期大学学長に中村章太郎が就任



奈良産業大学 第一回入学式



短期大学・同付属高等学校・同付属幼稚園 創立二十周年記念式典



奈良学園中学校・高等学校 創立十周年記念式!



奈良学園中学校・高等学校 第二体育館竣]



付属高等学校 文化祭



付属幼稚園 運動会



短期大学 学園ホール竣工

1986	昭和61	1月	(中高) 図書館竣工
1986	昭和61	11月	(大学) 5号館新築・2号館 (大学会館) 増築
1987	昭和62	4月	奈良産業大学法学部法学科開設
1988	昭和63	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校校長に郡章が就任
1988	昭和63	12月	(大学) 5号館増築竣工
1989	平成 元	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校校長に八百忠顕が就任
1989	平成 元	4月	(中高) 第二体育館竣工
1989	平成 元	6月	奈良学園中学校・高等学校創立10周年記念式典
1989	平成 元	8月	(大学) クラブ部室完成

# 学園の軌跡 1990~1995 後



奈良学園創立三十周年並びに 奈良産業大学創立十周年記念式典



# 奈良文化女子短期大学、同付属高校、同付属幼稚園創立三十周年並びに

# 奈良産業大学創立十周年を迎える

# 学園のできごと

1991	平成 3	1月	(大学)5号館増築竣工
1991	平成 3	3月	(大学)6号館(情報教育棟)竣工
1991	平成 3	12月	(大学)2号館(大学会館)増築
1992	平成 3	12月	(文幼) 園舎全面増改築
1992	平成 4	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に永冨富美子が就任
1992	平成 4	5月	(中高) サッカーグラウンド完成
1992	平成 4	12月	(短大) 6号館(情報教育棟)竣工〔現在の文高:衛生看護専攻科棟〕
1993	平成 5	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校校長に上田輝典が就任







奈良産業大学 新図書館竣工



奈良産業大学 情報教育棟竣工



奈良学園中学校・高等学校 球技大会



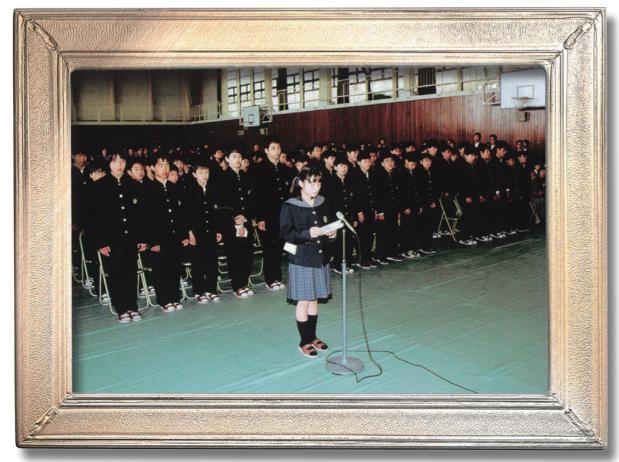
付属高等学校 戴帽式



付属幼稚園 園舎増改築

1994	平成 6	1月	(大学) 8号館竣工
1994	平成 6	4月	(大学) 7号館(新図書館)竣工
1994	平成 6	4月	奈良文化女子短期大学学長に植田俊治が就任
1994	平成 6	11月	奈良文化女子短期大学、同付属高校、同付属幼稚園創立30周年記念式典
1994	平成 6	11月	奈良産業大学創立10周年記念式典
1994	平成 6	11月	奈良産業大学産業研究所開設
1995	平成 7	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校校長に北森貞次が就任
1996	平成 8	2月	(大学) 記念グラウンド完成

# 学園の軌跡 1996~2000複



奈良学園中学校・高等学校 男女共学初の入学式

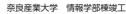


# 奈良学園中学校・高等学校が 男女共学となる

# 学園のできごと

	-		
1997	平成 9	3月	奈良文化女子短期大学教養学科第三部廃止
1997	平成 9	4月	奈良文化女子短期大学教養学科第一部を教養学科に名称変更
1998	平成10	3月	(短大)12号館(福祉学科棟)竣工〔現在の文高:万葉館〕
1998	平成10	4月	奈良文化女子短期大学学長に西川彭が就任
1998	平成10	4月	奈良文化女子短期大学福祉学科開設
1999	平成11	4月	奈良産業大学経営学部経営学科開設
1999	平成11	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校校長に石井和言が就任
1999	平成11	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校校長に川尻全良が就任







付属幼稚園 プール遊び









1999	平成11	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に杉江満直が就任
2000	平成12	2月	(中高) 本館(現サイエンス館)竣工
2000	平成12	4月	奈良文化女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科第一部に名称変更
2000	平成12	4月	奈良学園中学校・高等学校が男女共学となる
2000	平成12	11月	(大学) 信貴山グラウンド完成
2000	平成12	12月	「志賀直哉旧居」有形登録文化財指定
2000	平成12	12月	(大学) 10号館(情報学部棟)竣工

# 学園の軌跡 2001~2004複



奈良産業大学 時計塔



# 奈良産業大学に 時計塔寄贈される

# 学園のできごと

2001	平成13	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校校長に部谷勇が就任
2001	平成13	4月	奈良産業大学情報学部情報学科開設
2002	平成14	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に山田郭子が就任
2003	平成15	3月	奈良産業大学記念グラウンド改装記念式典
2003	平成15	3月	奈良文化女子短期大学食物栄養学科、音楽学科、専攻科音楽専攻廃止
2003	平成15	4月	奈良文化女子短期大学学長に田村雅宥が就任
2003	平成15	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に古垣昌子が就任
2004	平成16	3月	(大学) 卒業生から時計塔寄贈される
2004	平成16	4月	奈良文化女子短期大学教養学科を改組、環境教養学科を開設
2004	平成16	6月	学校法人奈良学園理事長に伊瀬哲也が就任
2005	平成17	1月	(大学) 信貴山グラウンド新装
2005	平成17	3月	奈良文化女子短期大学教養学科廃止



奈良学園中学校・高等学校 矢田山縦走







奈良産業大学 キャンパス内にバス停が設置される



短期大学 福祉学科授業風景

# 学園の軌跡 2005~2007後



付属高等学校 看護科校内実習



# 奈良文化女子短期大学付属高等学校が 奈良文化高等学校に校名変更

# 学園のできごと

2005	平成17	4月	奈良産業大学学長に田口芳明が就任
2005	平成17	4月	奈良文化女子短期大学学長に上野慱美が就任
2005	平成17	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校校長に野村利夫が就任
2005	平成17	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に片岡三和が就任
2006	平成18	4月	奈良産業大学学長に大西菊太郎が就任
2006	平成18	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校 特進コース・医進コース(中学入学生) 設置
2007	平成19	3月	(短大) 登美ヶ丘1号館、アリーナ竣工



付属幼稚園 こども発表会



奈良産業大学 奈良県内大学間単位互換制度協定調印式



奈良学園中学校・高等学校 中学棟旧校舎



豆期大学 福祉学科ゼミ課題発表



奈良産業大学 ビジネス学部授業風景



付属高等学校 マナー講習会

2007	平成19	4月	学校法人奈良学園理事長に西川彭が就任
2007	平成19	4月	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科開設
2007	平成19	4月	奈良文化女子短期大学付属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。校長に 仁後公幸が就任
2007	平成19	4月	奈良学園高等学校理数コース(高校入学生)開設
2007	平成19	4月	奈良文化高等学校衛生看護専攻科開設
2007	平成19	6月	法人本部を大和高田市東中127番地から奈良市中登美ケ丘三丁目15番1号に 移転
2008	平成20	3月	奈良産業大学経済学部経営学科廃止
2008	平成20	3月	奈良文化女子短期大学環境教養学科、衛生看護学科、福祉学科廃止
2008	平成20	3月	(登美ヶ丘)PP棟、P棟、M棟竣工

# 学園の軌跡 2008~2010 稜



奈良学園登美ヶ丘 総合グラウンド完成記念式



# 登美ケ丘キャンパス本稼働

# 学園のできごと

2008	平成20	4月	奈良文化女子短期大学学長に松田親典が就任
2008	平成20	4月	奈良学園登美ヶ丘教育総括監に吉井弘侑が就任
2008	平成20	4月	奈良学園幼稚園開園。園長に福永吉延が就任
2008	平成20	4月	奈良学園小学校開校。校長に福永吉延が就任
2008	平成20	4月	奈良学園登美ヶ丘中学校開校。校長に古川謙二が就任
2009	平成21	3月	奈良文化女子短期大学幼児教育学科第三部廃止
2009	平成21	3月	(登美ヶ丘) Y棟、MY体育館竣工
2009	平成21	4月	奈良学園登美ヶ丘高等学校開校。全日制普通科開設。校長に古川謙二が就任
2009	平成21	5月	「志賀直哉旧居」復元修復工事竣工
2009	平成21	6月	奈良学園中学校・高等学校創立30周年記念式典
2009	平成21	9月	(中高) 新校舎竣工



奈良学園登美ヶ丘 オータムフェスタ



奈良学園登美ヶ丘 天体ドーム完



短期大学 幼児教育学科第3部茶話



奈良学園中学校・高等学校 新校舎



奈良産業大学 グラフィック実習室竣工



付属幼稚園 お茶会



奈良文化高等学校 授業風景

2010	平成22	4月	奈良産業大学学長に藤原昇が就任
2010	平成22	4月	奈良文化女子短期大学幼児教育学科第一部を幼児教育学科に名称変更
2010	平成22	4月	奈良文化女子短期大学長期履修学生制度を導入
2010	平成22	4月	奈良文化高等学校校長に山田勝美が就任
2010	平成22	4月	奈良学園幼稚園園長に荒井恵子が就任
2010	平成22	9月	奈良学園登美ヶ丘総合グラウンド完成記念式
2010	平成22	9月	(登美ヶ丘) 天体ドーム完成
2011	平成23	3月	(大学) 10号館増築
2011	平成23	3月	(文高) みやび棟、清優寮 (1期)、稽古館、照今館竣工
2011	平成23	3月	(中高) 青雲館 (柔道場、剣道場、卓球場) 竣工

# 学園の軌跡 2011~2014 複



奈良学園大学説明会



# 奈良学園大学の出帆

# 学園のできごと

2011	平成23	4月	奈良文化高等学校普通科をⅡ類特進コース、同スポーツ特進コース、Ⅰ類保育コース、同福祉コース、同総合進学コースに改編
2011	平成23	4月	奈良学園中学校、奈良学園高等学校校長に森本重和が就任
2011	平成23	4月	奈良学園登美ヶ丘教育総括監に古川謙二が就任(中高校長兼務)
2011	平成23	4月	奈良学園小学校校長に藤原和幸が就任
2011	平成23	4月	(登美ヶ丘) 育友会館竣工
2011	平成23	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園園長に角田道代が就任
2011	平成23	7月	(中高) 新第一体育館竣工
2011	平成23	10月	(登美ヶ丘) バス車庫竣工
2012	平成24	1月	(中高) テニスコート (オムニコート) 竣工
2012	平成24	3月	奈良産業大学経済学部経済学科、経営学部経営学科、法学部法学科廃止
2012	平成24	3月	(文高) 清優寮 (2期)、光陽舎竣工





奈良学園小学校 宿泊学習(ハワイ



奈良学園中学校・高等学校 SS公開講座



短期大学 学外オリエンテーション



良学園幼稚園 ミニ運動会



奈良文化高等学校 調理実習



-付属幼稚園として最後の卒園式

2012	平成24	3月	奈良学園高等学校が、文部科学省よりSSH(スーパーサイエンスハイスクー
2012	1 130,24	5/ 1	ル)の指定を受ける
2012	平成24	4月	奈良文化高等学校普通科Ⅰ類に看護進学コース開設
2014	平成26	3月	(大学) 登美ヶ丘2号館竣工
2014	₩±36	4月	奈良産業大学を奈良学園大学に名称変更。人間教育学部人間教育学科、保健
2014	4 平成26	4月	医療学部看護学科開設。学長に梶田叡一が就任
2014	平成26	4 🗆	奈良文化女子短期大学を奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更。
2014	十成20	4月	学長に吉田明史が就任
2014	平成26	4月	奈良文化高等学校普通科 I 類に食文化コースを開設し、福祉コース募集停止
2014	平成26	4月	奈良学園登美ヶ丘中学校にⅠ類・Ⅱ類のコース制導入
2014	平成26	4月	奈良文化女子短期大学付属幼稚園を奈良文化幼稚園に名称変更
2014	平成26	4月	奈良学園幼稚園園長に西田明恵が就任

# 学園の軌跡 2011~2014 複

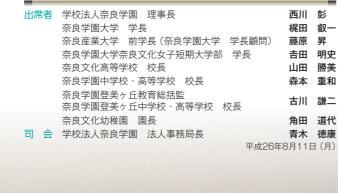




郡山キャンパス









# 未50奈 来年良 か統の

38

# 高田キャンパスは奈良学園の 原点であり、聖地である

## 創立者の建学の精神を受け継ぎ、 新しい人材育成を

司会 奈良学園は昭和40年、大和高田市に奈 良文化女子短期大学並びに同付属高等学校を 開校以来、50年の間に4キャンパス・10校 種を擁する総合学園として、社会に数多くの 人材を送り出してきました。本日は皆さんに、 創立者の思いが込められた建学の精神を受け 継ぎながら、新しい時代を担う人材の育成を 行ううえで、奈良学園並びに各校・園の役割 や思いをお話いただければと思います。

まず、発祥の地と建学の精神を大切にとい うのが、西川理事長の学園経営の基本に常に あると思うのですが、その点をお聞かせくだ さい。

#### 西川 (学校法人奈良学園 理事長)

高田キャンパスは学園発祥の地であり、あ る意味では「聖地」だと私は思っています。

創立者である伊瀬敏郎初代理事長は、南和 の地に奈良学園をつくる、学校をつくるのだ という思いの中で、その建学の精神を明言し ておられます。すなわち、「形式的な大量教

育の弊を避け、個性尊重の温かい人間形成の 場として、堅実にして良心的な教育を行うこ とを使命とする。深く学問の真理を追究し、 知性豊かな女性を育成するとともに近代的 な教養と徳性を養う、これを目途とする」と、 こんなふうに創立者はおっしゃっておられる わけです。

当初、女子教育でスタートしたということ も、それなりの創立者の思いがあるのです。 当時、奈良の中和・南和地域は、文化的にも 経済的にも非常に低い状況にあった。だか ら、我々も今でこそ 「女子力」 というような ことを言いますけれども、初代理事長は、女 性が頑張らないと日本はだめだということを、 ちゃんと見通しておられて、「女子をしっか りと教育しよう、そして、女子が文化の担い 手になるのだ」と語り、そのことが、結局は 南部の文化水準・経済水準を高めることにな るのだと、そういう思いで、女子校をつくら れたのです。

**司会** 奈良文化高校の山田先生、校長として、 また、高田キャンパスのキャンパス長として 今後の展望をお聞かせ下さい。

#### 山田 (奈良文化高等学校 校長)

私は平成21 (2009) 年に、学校法人奈良

学園に監査室長として入職し、当時赤字だっ た高田キャンパスの経営改善計画の策定と、 高田再開発(校舎改築)の実施計画を策定す るために参りました。そして、平成22(2010) 年度から奈良文化高等学校の校長として、実 際の経営改善計画の推進と校舎改築の任にあ

たることになりました。

校舎改築に関しては、女子校として過去の イメージを一新させること、改築の内容に職 員や生徒の声を取り入れること、校舎に奈良 文化をイメージできるような工夫を施すこと、 の3点が主なコンセプトでした。結果は、建 物については正倉院風の外観として奈良文化 が感じられるようなものができたのではない かと思っています。生徒の参加・参画という ことでは、特筆すべきは、制服を変えるにあ たり外部デザイナーに依頼せず、職員が、ず いぶん時間をかけて生徒の声や中学生の声ま で採り入れて現在の制服を制定してくれたこ とです。

そこで、今後の展望ということですが、幼 稚園はすでに、入園申込みの前日から徹夜の 列ができるような、地元で大人気の幼稚園に 変身しました。本校も、平成25 (2013) 年 には、決算で黒字化することができましたし、 平成26 (2014) 年度は定員を超える入学生 を迎えるなど、大きな当初の目標は達成でき たように思っています。したがって、理事長 のお話しにもありましたように、奈良県の中 和・南和の私立女子高として安定した生徒の 確保を目指すためにも、他校にない、オンリー ワンの学校づくりを目指しております。

また、改装した学園会館を「わの広場・ほっ こり」と命名しまして、ここに伊瀬初代理事 長の竹内遺跡での文化財コレクションや図書



を展示して、学園の歴史を語るコーナーにす る予定で、奈良文化高等学校としては、この 事業を50周年の記念事業として位置付けて いるところです。

#### 奈良文化に対する思いを生かした教育を

司会 角田園長にお伺いしたいのですが、学園 発祥の地で幼稚園が目指している教育につい て、また奈良文化をどう生かしていくかと いったところを、お話しください。

#### 角田 (奈良文化幼稚園 園長)

高田キャンパスには、すばらしく恵まれた 白然環境があります。そして、伸びようとす る者を温かく包んでくれる地域の環境、応援 してくださる力をいつも感じております。

この地だからこそ、子ども達がのびのびと 自分らしく、力強く、たくましく生きる力を 養う土台づくりをしたいと思っています。ま た、形式的で画一的な教育ではなくて、一人 ひとりの個性を尊重し、温かい人間形成の場 をつくっていきたいです。そのためには、私 たち教職員が園児やその保護者、地域の人に いつも情熱を持って本気で向き合っていくこ とが大事だと思っています。そうする中で、 文化を自らが創り出し、つながり、深めてい けるような、丈夫で柔らかい心と体を持った 子ども達を育んでいきたいと思います。

発祥の地で今後、園がなすべきことは、園 の元気や活気を、どんどん発信して、地域の 方に愛される幼稚園であり続けるということ です。そして、先ほど理事長先生が、この地 が学園の原点であると言って下さいましたけ れども、私達も、園を巣立っていった子ども 達、保護者、教職員にとっての、心のふるさ







未50奈 来年良 か統の

とであるような、そういう園づくりをしたい と思っています。

奈良文化幼稚園という園名には、奈良の風 土で熟成された豊かな文化の空気を思いきり 吸い込んで、未来の文化をつくりだす「力」 を育みたい、という思いが込められていま す。それを、私達は重く受け止め、過去から 未来へ繋ぎたいという思いを強く持ってい ます。また、文化=cultureの関連語である、 cultivateには「耕す」という意味があるよう に、私達は、子ども達の心を精一杯耕して、 無限大の可能性をいっぱい秘めた、きらきら した「種」をいっぱい蒔きたいと思っていま す。それが、幼児教育の原点だと思います。

# 高田キャンパスにおける 地域貢献とは

司会 学園発祥の地である高田キャンパスにお いて、奈良学園は教育を通じて今後、どのよ うな地域貢献ができるとお考えでしょうか。

西川 高田キャンパスは、葛城市と大和高田市 の両市にまたがっていますが、校地の3分の 2は葛城市です。また、葛城市には高校がな く、唯一あるのが奈良文化高等学校なのです。 したがって、葛城市も奈良文化高等学校に対 して期待を持っておられるし、高校あるいは 高田キャンパスの方からも、市に対している んなことを申し上げています。

高田キャンパスの再開発についての懇話会 では、医療施設であるとか福祉施設であると か、なにか地域に貢献できるようなプランが 可能か否かを、葛城市の市長さんとも、再三、 お話をしてきました。葛城市との連携によっ て、高校、幼稚園も良くなっていく、市にとっ てもプラスになるという、そういう相乗効果

のあるような案を一緒に考え、それが実現で きたらと思っているところです。

山田 理事長のお話のとおり、地域連携型の病 院や福祉施設も検討していただきました。現 状は、葛城市と防災協定を結んでおりますし、 より強い連携を進めていけたらなと思ってお ります。高校の、地域との連携としては、食 育推進といった部分で葛城市及び企業と連携 しております。また、葛城市が進めている 「ICT (情報通信技術) の街づくり」 推進事業 等には、葛城市から参画の要請もいただいて おりますので、積極的に加わっていきたいと 考えております。

西川 創立者の、「奈良文化」に対する思い入れ というのは、要は、日本文化の源流はまさし く奈良文化にあるのであって、奈良文化を しっかり学ぶことによって、人間性豊かな、 知的な人間を育てることができるということ なのですね。だから、常に教育の原点に「奈 良文化」を置くようにとおっしゃっていた。 それが、ちゃんと今、高田キャンパスの高校 と幼稚園で実現されているというのは、受け 継いだ我々としても、責任を果たしているの かなという気が致します。

#### ◆第2部◆

高田から郡山、三郷へ。 総合学園としての発展

建学の精神を受け継いだ、 今の時代の教育とは

司会 理事長にお伺いします。建学の精神を受 け継ぎつつ、今の時代に合った教育というの は、どういうものなのでしょうか?

西川 建学の精神を受け継いでいきながら、そ

れをどう解釈するか、どう受け止めていくか ということは、やはり時代の要請、社会の要 請によって変わってきます。私が思う教育と いうのは、要は、人間教育です。人間として 生きるために必要なことを、しっかりと教え ていくこと、時代を生き抜く力を付けさせる こと、それが教育だということです。建学の 精神を受け継ぎつつ、今の教育に必要な奈良 学園全体のキーワードは、私が常々申し上げ ているとおり、「人間力」だということなので す。

「生きる力を持った、意欲と思いやりと志 のある人間」「豊かな感性と知的好奇心をもっ た人間 を育てていくことです。どうしたら 成績が上がるんだろうという「How」型の人 間ではなくて、なぜ勉強しないといけないの かということを自問する [Why] 型の人間を 育てること。それが、今の教育に必要なこと ではないかと思っております。

極めて、抽象的な言い方をしましたけれど も、そういうことを基本として、それぞれの 校地で、それぞれの園児、児童、生徒、学生 を対象にしながら、各校・園に合った具体的 な教育実践をすれば良いのではないかと、こ んなふうに思っています。

# 北部進出によって 総合学園への発展が実現した

司会 奈良学園が総合学園として発展する契機 となったのは、高田から郡山、三郷へと進出 したことによるものだと考えますけれども、 いかがでしょうか。

西川 おっしゃるとおりです。先ほどもお話し たように、高田キャンパスは女子短大と女子 高でスタートしています。そして、初期の目

的を達成したあとは郡山、北部へ出て行って 男子教育を手がけられた。それが、奈良学園 中学校・高等学校です。女子教育から男子教 育、それも男子のエリート養成。さらに、そ れと並行して三郷町に共学の県下初の社会科 学系の大学をつくられた。まさに、伊瀬初代 理事長の描く総合学園の青写真がそこで一応 完成し、「世界に雄飛する人材を育てる」とい う創立者の夢はきちんと体現されたのではな いかと、そんなふうに思っています。

# たくましい人材を育成するための 土台づくり

**司会** 森本校長にお伺いしたいのですけれども、 奈良学園中高における真の文武両道という伝 統を生かした人材育成について、お聞かせい ただけますでしょうか。

# 森本 (奈良学園中学校・高等学校 校長)

理事長がおっしゃられたように、「学力」「人 間力」を養うということが、創立者の思いで もあり、本校は36年間、それを一貫してやっ てきたと思います。中高一貫教育で幅広い基 礎力を養って大学へ進み、社会で活躍する。 それが本校の伝統的な方針であり人材育成で す。

例えば、本校に医進コースがありますが、 医者には高い知力と豊かな経験が必要です。 しかしそのほかに、患者とうまくコミュニ ケーションがとれるか、患者の立場にたって 考えられるか、あるいは10時間を超えるよ うな手術も多くありますので、体力があるか なども必須の資質となります。

学力とともに、そういう人間力の基礎を中 高6年間で養っておきたいということです。 そのための条件が本校には十全に揃ってい







未50奈 来年良

ます。第一には、恵まれた教育環境です。校 地は13ヘクタールと広大であり、他の学校 であれば、3校くらいが収まります。その中 に、里山もあれば体育館も2棟ある、サッカー 場、5面のテニスコート、武道場、グラウン ド、アーチェリー場等々があり、施設・設備 は、最高水準だと思います。

第二は、教職員が非常に優秀かつ熱心であ ることです。労をいとわず、毎日、熱心に生 徒の指導や教材研究に力を注いでいます。

このように物理的、人間的な条件が揃って いるのが本校の良さであり、今後ともその好 条件を生かして学校の発展を図りたいと考え ています。

西川 初代理事長は、英国のパブリックスクー ルを前提に置いておられたのです。ですから、 森の中に学校をつくるということで、郡山の、 あの広大な自然豊かなキャンパスをつくられ た。その、自然を大事にするということが、今、 ちゃんと受け継がれています。スーパーサイ エンス・ハイスクールに指定されていますが、 そのテーマは「環境」です。まさに、これか らの一番必要な環境問題をきちっと先取りし て、中高は取り組んでいますね。あの素晴ら しい環境を、創立者は、いろんな形で教育の 中に生かしたいと考えられたので、それを見 事に受け継いで体現しておられるのが中高で あろうと、私は実感しています。

# 人間中心の時代にふさわしい 基盤づくりを

司会 藤原先生、県下初の社会科学系4年制大 学として、奈良産業大学が現在までに果たして きた成果をお聞かせいただけますでしょうか。

#### 藤原 (奈良産業大学 前学長)

奈良産業大学は、昭和59 (1984) 年4月 に開学致しました。地元三郷町はもとより奈 良県内の教育界、産業・経済界からの強い要 望があって、伊瀬敏郎初代理事長はこうした 地域社会の声に応える形で、奈良産業大学の 設立を決意したというふうに聞いております。 「実践力を有する人材の育成」を建学の精神 として、経済学部、法学部、経営学部、さら に情報学部も加えて4学部体制を実現しまし た。その後、18歳人口の減少とともに、社 会科学系の3つの学部を統合してビジネス学 部に変えております。

その間の成果ということでお話しますと、 この30年間で、奈良産業大学は建学の精神 に謳われた、1万6千人を超える「実践力を 有する有能な人材」を社会に送り出しており、 多くの卒業生が主導的な立場で地域社会に貢 献しております。また、昭和60年代の18歳 人口が急激に増加した時期に、高等教育機関 として学生の受け入れ態勢を整えたというこ とでも、社会に大きく貢献したのではないか と思っております。

そのほか、奈良産業大学は長い間、「地域 社会への貢献」「スポーツ振興」「国際交流」 という、この3つの分野で大変な社会貢献を 果たしてきました。

奈良文化女子短期大学が設立された時代は、 教養ということが非常に重要視された時代で した。そして、奈良産業大学が設立された頃 というのはバブルに向かう時期で、モノ中心 の社会ということから、実践力を有する人材 の育成に重点が置かれた。それで、次の時代 は、人間中心の時代に移っていく過程であろ うと思います。そういうことで、奈良学園大

学では、これからの新しい時代にふさわしい 確固とした基盤をつくっていただけたら、大 変ありがたいなと思っております。

西川 奈良「産業」大学という名称は、当初は、 地元の経済界・産業界の要請を受けてできた 学校ですから、それでスタートしたわけで すが、創立者の思いの中には、「産業」という 言葉を使ったもうひとつの理由があったので す。当時の奈良県を代表する産業といえば薬 学でしたから、薬学部をつくろうという考え も初代理事長はお持ちだった。理系も含めた 総合大学を目指しておられたのではないかな という気が、私はしています。我々、受け継 いだ人間として、どういう形でそれを展開し ていくのかは非常に難しいですけれども、そ ういう創立者の思いがあったということだけ、 ちょっとご紹介しておきます。

#### ◆第3部◆

# 登美ヶ丘から世界へ雄飛を、 挑戦は続く

## 登美ヶ丘キャンパス建設の意義とは

司会 京阪神に近い奈良県北部で、世界に雄飛 する人材を育てたいという学園創立者の思い を受け継ぎ、現理事長の下で登美ヶ丘の地に キャンパスを開き法人も移転しました。この ことの意義を、理事長にお伺いしたいのです が。

西川 冒頭、建学の精神の話をしましたけれど も、これはやはり時代によって解釈は変わっ てくると思うのです。当然、時代の変化や社 会の変化の中で新たな課題がどんどん出てく る。学園としてそれに対応できる教育という

のを、もう一度つくり直さないといけないと いう思いの中で、この登美ケ丘キャンパスが できたわけです。幼稚園から大学まで、まさ にすべての校種が揃う一大総合学園をここで つくろうということでした。

登美ヶ丘キャンパスは、閑静な住宅地に隣 接しており、関西文化学術研究都市に位置し ています。しかも、駅から近くてアクセスが 良く、3万坪弱(10万㎡弱)もあります。こ のキャンパスが、奈良市の文教地区、教育文 化センター的な役割を果たすこともできるの ではないかと、そういう思いもありました。

そして、実際に、幼稚園から高校まで15 年間の学校をつくりました。法人本部も高田 から登美ヶ丘に移しました、短期大学も移し ました。本年4月には、奈良学園大学の保健 医療学部も登美ヶ丘に開設しましたので、ま さしく、大学まで一貫した教育が展開できる キャンパスになった。そういう意味では、本 当に、奈良学園の将来を担っていく中心とな るキャンパスであろうと思います。

#### 建学の精神は、 「自ら生きて、活きる」

**司会** 登美ヶ丘の先鞭を切って開学したのが、 登美ヶ丘幼小中高です。古川先生、この地の 利を生かした人材育成についてお聞かせいた だけますか。

#### 古川(奈良学園登美ヶ丘 教育総括監)

登美ヶ丘は、先ほど理事長も言われたとお り、非常に便利な所で、なおかつ教育に対す る関心がとても高く、この地の住民の方、さ らには隣接する京都、大阪、奈良といった 地域からも子どもをぜひ通わせたいという ニーズがあり、私達は、小中高12年間の児

42

吉田明史 学長



未50奈

来年良

か統の

稚園教育3年間を加えて、「3+4-4-4」と いう教育システムの実践を行いたいと考えま した。12年間を従来のように [6・3・3] で はなく、子どもの心と体の発達段階や学習に 対する到達段階を考えて、小学校1年から4 年生 (Primary) まで、5年生から中学2年 生 (Middle)まで、中学3年から高校3年生 (Youth) までと、「4-4-4」の区切りを設 けました。幼稚園も、小学校との交流を多く し、スムーズにつながるようにして、幼稚園 から高校までの15年間の一貫教育というシ ステムをスタートさせました。 奈良学園登美ヶ丘の建学の精神として掲げ

童・生徒の教育に、さらにその土台となる幼

たのが、「自ら生きて活きる」という言葉です。 自分でしっかり生きる力、そして、自分を活 かす、または、人を活かす力、こういったも のを持つことが大前提になります。その上で、 さらに教育の目標として、3つの柱をつくり ました。「和の精神を大切にする」、「たくまし く生きる力を育む」、「科学的に物事を見る力 を身に付ける」という、この3つの力を養い、 それを幼稚園から高校までの全ての教育の中 であてはめていこうと考えました。

実際には、幼稚園から高校までの教育の流 れの中で「体験を重視した教養教育」という ものを大事にしています。学校で先生の話を 聴くというだけではなくて、実際に現地へ行 き、本物に触れて感じてみること、そして考 え、まとめてみること、人前で発表してみる こと、しっかりと他人の意見を聴いてみるこ となどの「体験」を様々な教育活動の中に組 み入れています。

奈良学園登美ヶ丘は、子ども達にとっても、 保護者にとっても、非常に安全で安心できる、

しかも、世代を越えた交流活動ができる「学 びの街」として6年が経ち、7年目に入って います。平成20年に242名でスタートした 奈良学園登美ヶ丘は、現在1300名を越える 園児・児童・生徒たちが通い、毎日を元気に、 楽しく、キラキラとした目をして活動してい ます。

#### 「奈良文化」の中身を吟味し、 必修化も検討

司会 短期大学は法人の移転から半年遅れで登 美ケ丘に移転し、また、今年度からは奈良学 園大学の「短期大学部」として再スタートし ました。吉田学長、今後の展望をお聞かせい ただけますでしょうか。

#### **吉田** (奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 学長)

発祥の地の大和高田市から移ってきて、7 年目になります。私が着任して今、2年目で すけれども、いちばん最初に考えたことは、 大学名の意味でした。理事長がおっしゃった ように、「奈良文化」女子だということからす ると、カリキュラムの中にその奈良文化にふ さわしい内容を実際に盛り込み、指導して、 修得後には学生にどんな力がついているかと いうことを明確にしていく必要があるのでは ないか、と考えています。現在のところは、「奈 良文化論」という選択科目でフィールドワー クを中心に展開していますが、今後は、必修 科目として、内容を吟味していく必要がある と思っています。

今、教育の質の充実を目指しています。登 美ヶ丘キャンパスの環境は、本当に抜群です けれども、環境だけでなくて、学生が2年あ るいは3年たって卒業した時にどんな力が付 いているかということを明確にするために、

今年度からシラバスの中身を変えて、ルーブ リックといいますか、すべての科目について 達成のレベルを3つに分けて示し、教員と学 生が、自分の立ち位置、あるいは、指導のレ ベルを確認しながら授業をするということを しています。特に奈良文化に関する科目を必 修科目にした場合に、そのレベル分けや達成 度の評価方法が課題になりますので、そのへ んをこれから、考えていきたいと思っていま

また、今年度からは、奈良学園大学という 4年制の大きな傘の中に「短期大学部」とし て再スタートしました。図書館、食堂を含め、 学生が過ごす環境は非常に良くなりましたが、 それだけではなくて、今後は、学生達に保・幼・ 小の免許を取らせるということを視野に入れ、 短大を出て4年制大学にスムーズに編入でき るような環境をつくっていくことも考えてい きたいと思います。

西川 吉田学長がおっしゃったことは、ただ単 に環境が良い、校舎がきれいだというだけで はなくて、中身が大事だ、だから、カリキュ ラムを見直すということですね。教養教育は もちろんですが、専門教育にも力を注がれる ということで、ものすごく頼もしく思います。

# ユニバーサルアクセスの時代における 高等教育

司会 創立者の理想がまさに、三郷キャンパス と登美ケ丘キャンパスで実現しました。梶田 先生、奈良学園大学の目指す教育について、 お聞かせいただけますでしょうか。

#### 梶田 (奈良学園大学 学長)

教育事業というのは、ある定型的なものを 定型的にやっていけば済むものじゃなくて、 いつでも新しい、まさに理事長がおっしゃる ように「教育はロマン」なんですよ。新しい 夢を追っかけていかなきゃいけない。そして、 そのひとつの象徴的な動きが、今回の奈良学 **園大学の発足だと思っております。** 

これまで、奈良産業大学は三郷だけで展開 していましたが、今年、三郷に人間教育学部 をつくり、登美ヶ丘に保健医療学部をつくり、 そして短期大学を短期大学部にしたというこ とで、高等教育の新体制をつくりました。実 際に今、この奈良学園登美ケ丘キャンパスを、 建学時の原点を大事にしつつ、視野を、奈良 から関西全体に広げ、日本全体をにらむとい う段階にあります。

奈良学園大学に、新しく人間教育学部と保 健医療学部ができたのも、それだと思ってお ります。教員養成も看護師養成も今、新しい 段階に入ってきているのです。今の高等教育 の、一つの大きな使命というのは、大学で社 会に入っていくための資格をきちっと身に付 けて、その資格を武器にして、全国で活躍す るという方向に行くわけです。これは、高等 教育の在り方からすると「ユニバーサルアク セスの時代における高等教育」というふうに 表現されます。つまり、もう30年前、50年 前の高等教育とは違うのです。

この2つの学部は、将来大学院を設置する ことを考えています。つまり、ただ単に資格 を取らせるだけでなく、その資格をもって教 育界、看護医療の世界で指導的な立場でやっ ていくということをにらんで学部が発足した わけです。ですから、初めから教員の主要な メンバーは、全員マスターコースに必要な認 定資格を有する先生方を揃えています。

今年、人間教育学部には北海道、東北から



西川彭 理事

# 座談会

# 未来に生かすため奈良学園の

九州、沖縄からも学生が来てくれました。ありがたいことに、すでに今年のオープンキャンパスにも、かなり遠方から来てくれております。

西川 私は、大学というのは奈良学園のフラッグシップだと思っています。特に、奈良学園をつなぐキーワードは「人間力」だとお話ししましたが、その「人間力」を大事にする、そういう人材を養成するということで、本年からの奈良学園大学の人間教育学部と保健医療学部の開設は、学園全体にとって非常に大きな存在となるものと思っています。

## 総合学園としての スケールメリットを生かす

**司会** 最後に、西川理事長、学園のスケールメリットを生かすということについて、お聞かせ下さい。

西川 平成19 (2007) 年に理事長に就任致しましたけれども、その年は第二次中期計画が策定される年でもありました。これが今の経営改善計画につながるわけですが、その中で、奈良学園をこれからどうしていくのか、創立者の建学の精神を生かしながら、どういうふうな学園づくりをやっていくべきかということを、私なりにこの計画の中で言わせていただきました。

それが、現在奈良学園が掲げております本学教育の理念の「教育はロマン、夢を語るもの」です。そして、経営理念として幼稚園から大学まですべての校種をもつ総合学園としてのスケールメリットを絶対生かすべきだということを掲げました。

これは高田キャンパスにおける文化高校と 幼稚園、郡山キャンパスにおける中高一貫教 育、登美ヶ丘キャンパスにおける15年間の 幼小中高の教育など、各校種間の交流・連携 はもちろんのこと、4つのキャンパス間の連 携・協力をより一層、密にすることによって、 より大きな教育効果を上げることができる、 さらに、学園全体の活力を高め、更なる発展 を促すことができるということなのです。

この教育理念と経営理念。そして、全国で際立つ学園づくり、オンリーワンの学園づくりという経営目標の3つを改めて策定させていただき、そういう中で私は創立者の思いを実現すべく取り組んできました。

私は奈良学園から本当の意味での「エリート」を送り出したいと思っています。選ばれた人、特別な人ということではなく、「本来の意味のエリート」です。世のため人のために尽くすことができる、そういう自己犠牲の精神と奉仕の精神に富んだ人材です。そういう本当のエリートを、この奈良学園から送り出したいのです。

その教育実践をそれぞれのキャンパスで今、 具体的にしていただいている、その中から必ずやグローバル・マインドをもち、かつ地域にも貢献するローカル・マインドも備えた、まさしく「グローカルな人材」がこの奈良学園から巣立ってくれたらいいなと、いうのが私の願いです。



青木德康 法人事務局長

